

笑顔大好き

EGAO DAISUKI

2010 7.31 Vol.43

ところい洋治事務所 〒319-0205 笠間市押辺1745 TEL 0299(45)6818 FAX 0299(45)0818

茨城県では、7月1日からドクターヘリの運航が始まった。運航前に笠間市消防本部と基地病院（水戸済生会病院・水戸医療センター）との運航シミュレーションが行われた。ヘリが離着陸する笠間市内のランディングポイントには30箇所。両者の連携が大切なため、真剣な訓練であった。中央病院でも現在ヘリポートを建設中であり、近い将来、基地病院として期待されている。ドクターヘリは、県が運航会社に年間約1億9千万円で委託している。全県域を約30分で飛ぶ。（22年6月）



常井議員が水戸土木事務所と12年間連続で勉強会

宍戸橋架替え、洶沼川改修、県道大洗友部線改良の3点セットの早期整備と危険解消を重点要望！

国道355号の洶沼川に架かる宍戸橋は、昭和4年に建設され、81年を経過しており、老朽化が心配されています。洶沼川は、常磐線の鉄道橋の箇所でも流路が狭くなるため、大雨のたびに上流の橋爪・平町地区など住宅密集地での増水が心配されています。また、北関東道の側道である大洗友部線は、橋爪地内で極端に狭くなっており、宍戸小の生徒の通学道路、通勤道路として、とても危険な道路となっています。

この「3つの危険」の解消を常井議員は、再三にわたって、水戸土木事務所などへ要望してきましたが、関係機関の調整、予算の確保、地元住民の協力を求める努力の不足等により、遅々として進展しておりません。

今回改めて、最重要課題として、早期解決を強く要望しました。

皆様のご協力を頂きながら、実現に向けて全力投球してまいります。



▲矢野下方面から宍戸小へ通学する子どもたちの安全を守りたい。上方は「はなさか」。(22年6月)



▲国道355号の老朽化した宍戸橋の架替えは、喫緊の課題である。(22年6月)



▲昭和61年8月5日、洶沼川増水による橋爪・平町地区の浸水状況。

常井議員が、皆さんと一緒にがんばる！

これからも 安全で便利な道路・河川を着実に整備していきます

常井議員からの要望を受けて、水戸土木事務所幹部との勉強会が今年も開催されました。

皆さんの声をしっかりと伝えました。



▲羽部道紀水戸土木事務所長（正面左）、担当課長らとの勉強会の様子。（22年5月）

明の中から、主なものをお知らせします。

1. 宍戸橋の架替え、涸沼川改修、大洗友部線の改良

- ・宍戸橋の架替えには涸沼川の河川改修が伴うため、県庁道路建設課・河川課、水戸土木事務所及び笠間市と協議を進めていく。
- ・新橋整備には用地取得、また予算措置などの課題があるため、大洗友部線（北関東道の側道）の拡幅を含めて段階的整備などの検討を進めていく。
- ・JR常磐線鉄道橋の架替については、早期に架替えが可能となるようJRとの協議を進める。同時に、分流方式（2列河川）等による工法も併せて検討していく。宍戸橋新橋の位置と涸沼川の河川改修計画、大洗友部線の改良計画との調整、連携をしていく。

2. 県道稲田友部線（本戸地区）

- ・現在の危険箇所の解消のためにも整備を進める。
- ・22年度は、横断管渠の工事に着手。



3. 県道富谷稲田線（稲田地区）

- ・共有地の箇所の用地取得を進めている。
- ・用地取得が進めば工事に着手したい。

4. 県道真端水戸線（大橋～池野辺地区）



- ・大橋地区の東小学校から池野辺地区に向かう区間の380mの整備が完了。
- ・現在は共有地を含めて用地買収の交渉を進めており、用地取得が進めば順

次工事に着手する予定。

5. 県道南指原岩間停車場線（長沢地区～（旧）洗心館）

- ・18年度に保安林の解除手続き及び民地の用地を取得済。
- ・今後は、道路整備に向けて国有林の用地取得を予定。

6. 県道平友部停車場線（大沢跨線橋～友部病院前迄：L＝約1km）

- ・拡幅に向けて努力する。友部IC～宍戸小裏～大沢跨線橋は、笠間市の合併支援道路事業で22年度一部工事予定。

7. 県道杉崎友部線

ア) 南友部地区の整備（L＝700m）

- ・21年度は、友部駅北口の東側の道路整備に向けて用地を取得。
- ・22年度は、JT前の工事を進める。（歩道は、当面JT側のみ予定）

イ) 小原地区バイパスの整備（L＝1.6km）

- ・南友部地区完了後に着手する予定。

8. 県道上吉影岩間線（桐山地区）

- ・22年度は、昨年度に引き続き工事を施工する予定。

9. 県道水戸岩間線（岩間街道土師地区）

- ・21年度は、歩道整備工事（桜井橋側道橋の前後）を施工済。22年度は、用地取得を進める。

10. 国道355号笠間バイパス

- ・22年度は、国道50号から石井神社までの300m区間とJR水戸線の跨線橋を含む区間の整備を継続。

11. 県道日立笠間線（大淵地区）

- ・引き続き道路整備工事を進め、22年度内供用を目指す。

12. (仮) 南友部平町線（北山公園のバーベキュー場を通過する新設道路）

- ・県が市から受託して工事施工中。
- ・22年度は「やすらぎ」から国道355号（手越のセブンイレブン）までの区間の工事を引き続いて整備する。

13. 県道大洗友部線（仁古田～野曾地区）

- ・現在用地買収を進めている。用地取得後に工事に着手する予定。
- ・市町境界の一の橋の前後の路肩整備については検討する。



14. 涸沼前川の堆積土砂除去と堤防崩壊箇所の補修（小原・市原地区）

- ・河道内の土砂の堆積状況などを把握し、緊急度の高い箇所から施工する。22年度は小原・市原地区を予定。

15. 随光寺川・桜川（上郷・下郷地区）の改修及び浚渫

- ・随光寺川の堆積土砂撤去については秋以降に実施する。
- ・桜川の浚渫については、継続して実施しており、今年度は4月に実施済。

16. 南指原川（本戸地区）の堆積土砂除去

- ・上流部は、20年度で完了したが、下流域の方から要望があったので22年度実施予定。

17. 涸沼川（福田地区）・間黒川（寺崎、箱田地区）の堆積土砂除去

- ・22年度実施予定。

18. 涸沼川の河川内・堤防の竹木の伐採、草刈り

- （湯崎、住吉、仁古田、上押辺、下押辺、安居地区）
- ・引き続き伐採を実施する。

畜産試験場跡地の暫定利用が進んでいます

◎雪国まいたけ社が露地栽培

循環型農業団地構想の実現を目指す同社（本社新潟県）が、実験農場として露地栽培を行う。同社のカット野菜事業・健康食品事業の原料とする。

1. 貸付期間

平成22年6月1日～25年5月末日（3年間予定）

2. 貸付面積

畜産試験場跡地南側167,774㎡

3. 作付内容

アシタバ、白菜、レタス、
トマピー、ニラ



4. 地元雇用

年平均14人程度採用予定 ▲雪国まいたけ社の作付(22年6月)

5. 地元との連携等

- ・将来農業団地での安定した雇用機会創出のモデル実験を行う。
- ・近隣農家と契約して、同社のカット野菜（市場占有率1位）に活用することを検討。

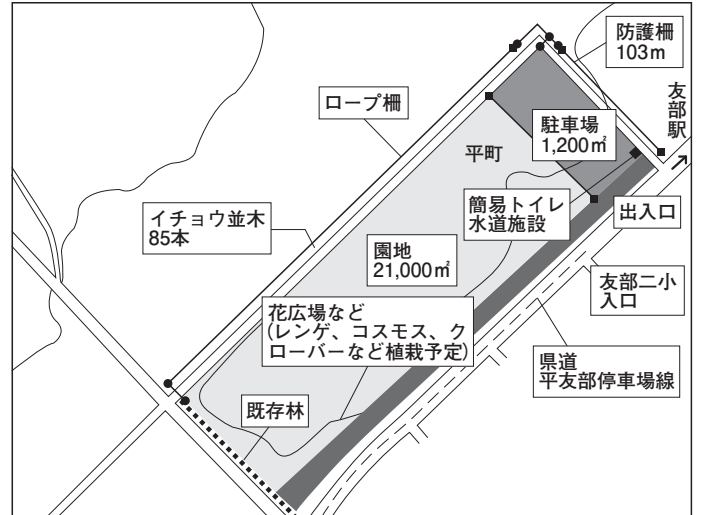
6. 将来構想

- ・同社は、近い将来、本県において、大規模な野菜生産及びキノコ・野菜の植物工場やカット野菜工場の建設を計画している。（※常井議員は、茨城中央工業団地笠間地区（旧総合流通センター）への進出を同社等へ要請している。）

※ 常井議員は、22年3月県議会の予算特別委員会で、茨城中央工業団地（笠間地区）などの工業団地予定地の農地としての暫定利用を提案して、県が実現の方向を示しました。その直後に、同社から打診がありました。常井議員は、同社に対して、「笠間地区」での栽培を要請してきましたが、同社は当面すぐに使える畜産試験場跡地での栽培を先行しました。

◎公園（広場）としてオープン

常井議員が、平成21年12月の一般質問で、公園（広場）として、地域住民に利用させるべきだと主張して、実現することになりました。7月16日にオープン。



1. 公園の場所

畜産試験場跡地の北側、友部二小向かい側約2.9ha

2. 設置・管理

笠間市が、「笠間市みどりの広場」として設置・管理。（県が敷地を無償で貸付け）

3. 施設

簡易トイレ、駐車場。遊具などは設置しない。

4. 利用時間

夏季（4～11月）8：30～18：30

冬季（12～3月）9：00～16：00

（時間外は、門扉を施錠）

5. その他

- ・笠間市民など皆さんの憩いの場として、大いに利用して頂きたいと、常井議員は願っております。

県立友部病院の全面改築に伴い、筑波海軍航空隊の資料展示コーナーが実現します

常井議員は、同病院敷地が、旧筑波海軍航空隊の跡地であることから、その貴重な歴史的財産を後世に引き継ぎ、平和への願いを伝えたいと主張してきました。その結果、平成23年春のオープンに向けて次のことが実現することになりました。

①県産材を使った木造別棟で整備する児童思春期デイケア棟の中に、筑波海軍航空隊などの歴史的な資料を展示するコーナー（約8坪）を整備します。

県民が、いつでも見学できることとなります。

②号令台と正門は貴重な歴史遺産として保存し、また

桜並木はそのまま残すこととしています。

③建物には、地元笠間市を代表する笠間焼や稲田みかげ石も用います。笠間焼は、本館正面の壁面に、縦1.5m、横11mの陶板壁画を設置します。みかげ石は、本館交流テラスの壁等（約110㎡）や展示コーナーの床等に使用します。



▲航空隊友の会（塩畑寛会長さん）が主催する慰霊祭で献花。（22年6月）

県出資団体等調査特別委員会

(要約)

第13回 (H.22.5.14)

●エコフロンティアかさまで、県は住民との約束を守るべきだ

常井委員 エコフロンティアが平成17年8月から開業し、10年間の埋立て計画期間のうち既に5年を経過しているが、21年度までの埋立て計画の実績が15%というのは低すぎる。計画そのものがずさんだったのではないか。

小野廃棄物対策課長 県内の埋立処分量は、平成10年度に約60万トンだったものが平成19年度には、19万トンと7割も大幅減となった。そういう変化を平成14年の計画段階で想定できなかったことは、謙虚に反省せざるを得ない。

常井委員 当初、10年間で終了する予定だった埋立てを20年も延長して平成46年までかけて30年間で埋立てると言うが、いきなり20年も延長する根拠は何なのか。

小野課長 廃棄物が少なくなっている現状を踏まえて、計画した。本当に地元の方々にご苦勞をおかけするが、理解をいただけるように努めていく。

常井委員 当初の計画当時、県全体で最終処分場の受入容量があと5・6年しかもたないという中で、非常な負担を旧笠間市にお願いし、公共的な処分場として、県が深く関与してきた。県が責任をもって、資金調達をして、全部処理していくという姿勢が欲しい。また、県外からのごみ受け入れという県の新たな方針も、住民ときちんと協議していかなければならない。その時には、資金計画、経営収支、稼働期間などの新たなシミュレーション(想定)を提示すべきだ。46年まで延ばすのではなく、10年の約束を基本にして計画を立て直すのか、そして、それをもって住民と合意をしていくのか確認をしたい。

栗田生活環境部長 平成46年までを最大のごみ受入期間として、今提示しているが、地元からも1年でも早く埋立てを完了して欲しいという要望が出ているので、1年でも早く完了するよう努力していきたい。

第14回 (H.22.6.14)

●県住宅公社の破綻処理で、負担を次世代にかぶせるな

常井委員 県住宅供給公社の破綻に伴い、県は、損失補償した380億円を第三セクター等改革推進債を活用して15年で返済するやり方で、軟着陸をしたいというようだ。

だが、そもそも何でこんな事になってしまったのか、負担を次の世代にかぶせる前に、今の世代や、知事、議員、職員の責任はどうするのかという議論が、まるっきり欠落してしまっている。この失敗をした世代が痛みを感じずに、サーッと流して終わってしまうのはおかしい。同公社については、これまで、解散、清算、法的整理という言葉を使っているが、そういうオブラートに包んだ話では、県民にはどういう状態か深刻さが分からないではないか。実態は破産でしょう。それを前提にして、今後の法的手続のスケジュールの中身を具体的に示すべきだ。

上月副知事 改革推進債の対象額を少なくして、できるだけ22年度予算で先に処理する努力はしてきた。これほどの債務超過があるので、法的手続ということになれば、破産という道も選ばざるを得ない。9月議会で、関連議案を提案し、議決がされたあと、できる限り速やかに法的手続の申し立てをしていきたい。

写真で見るとこい洋治 活動記録



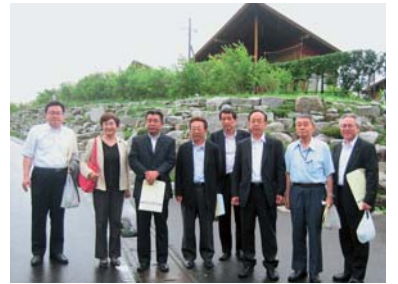
▲筑西地区では、季節はずれの雪で、梨のネットの倒壊被害が起きた。被害農家への特例支援措置が実現できた。(22年4月)

地元笠間市のクラインガルテンで調査。山口市長、川上茨城中央農協組合長から、栗のブランド化などの説明とPRがされた。(22年6月)

農林水産委員長として活躍



▲全国有数の畜産県として、口蹄疫の予防に万全の対策を知事に要請した。(22年6月)



元気な高齢者の皆さん



▲水雨の中で行われた愛宕杯ゲートボール大会(飯田行夫会長さん)。(22年4月)



▲友部・岩間地区のペタンク大会で、「ソ〜レ」。(22年6月)



▲友部地区グラウンドゴルフ大会には、約400人が参加した。宇田卓司会長さんたち。(22年5月)



▲国道50号福原地内での交通死亡事故現場で、交通安全を呼びかけた。菊池誠笠間署長は、死亡事故現場に出向いて、原因の究明と検証に取り組んでいる。(22年6月)



▲笠間市地域女性団体連絡会(富田と子会長さん)の総会にて。(22年5月)



▲笠間市長杯争奪リトルリーグ野球大会(塩田義清大会長さん)で、立派に選手宣誓。(22年6月)



▲小原区内洶沼前川のたい積土砂除去の現地調査にて。数年前に除去したが、すぐにたまってしまう。(22年4月)



▲間黒川(寺崎、箱田地区)の土砂たい積状況を水戸土木事務所原部河川整備課長と調査。(22年7月)